

3. 生産性倍増に向けた10のチャレンジに関する取組み

C 生産性倍増に向けた10のチャレンジに対する各カンパニーの取組み

生産性倍増に向けた10のチャレンジ		各カンパニーの取組み		
		短期的施策	中期的施策	長期的施策
モノ	①			
	② 「競争調達比率倍増」	フュエル&パワー・カンパニー <ul style="list-style-type: none"> ◆ 軽質LNGの導入 ◆ 新設電源の試運転前倒し ◆ 高効率LNG火力の定期点検工期半減 等 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 軽質LNGの導入拡大(LNGタンクの増設) ◆ 既設設備の更新・高効率化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 軽質LNG導入の更なる拡大(LNG調達) ◆ 包括的アライアンスによる燃料調達コスト低減 等
	③ 「設備仕様・品目数半減」			
④ 「定期点検期間半減」 「設備延命化・余寿命倍増」				
カネ	⑤ 「メーカー・サプライヤー依存度半減」	パワーグリッド・カンパニー <ul style="list-style-type: none"> ◆ 仕様・発注方式の見直し ◆ 工法・実施基準の見直し 等 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 工事・点検業務委託先の構造改革 ◆ 保全業務の抜本的見直し ◆ 対策基準見直しによる対策数量減 等 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 技術革新による新材料の適用 ◆ 点検の自動化/機械化 等
	⑥ 「在庫半減」			
	⑦ 「電気事業外売上倍増」			
ヒト	⑧ 「意思決定プロセス改善」	カスタマーサービス・カンパニー <ul style="list-style-type: none"> ◆ 契約変更申込み等に伴う現場業務の競争発注 ◆ 料金関連業務の仕様標準化による業務効率化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新システム導入による料金関連業務の縮小 ◆ 一般用電気工作物調査の調査方法/業務の合理化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スマートメーター導入拡大による現場業務の縮小 等
	⑨ 「仕事の棚卸し」「残業半減」			
	⑩ 「全社員多能工化」			

3. 生産性倍増に向けた10のチャレンジに関する取組み

C フュエル&パワー・カンパニーの取組み事例(1/3)

<p>施策概要</p>	<p>軽質LNGの導入拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 10年後に最大1,000万ト/年までの、米国産シェールガスなどの軽質LNGの大幅な導入拡大を計画、設備面と調達面から対応を進めている。 ◆ 軽質LNGの導入拡大を通じて供給ソースの多様化を図り、売主間の競争を形成することにより、燃料費削減を目指す。現時点で、約200万ト/年の軽質LNGの売買契約を締結済み。
--------------------	---



3. 生産性倍増に向けた10のチャレンジに関する取組み

C フュエル&パワー・カンパニーの取組み事例(2/3)

施策概要

高効率LNG火力・石炭火力の定期点検工期半減

- ◆ コスト競争力のある高効率LNG火力・石炭火力の高稼働化は、燃料費削減に直結。高稼働化のためには定期点検工期を短縮し稼働可能な時間を拡大することが重要。
- ◆ 従来の工期短縮検討の枠を超えた、工期半減の思想のもと、外部の視点を取り入れたムダの徹底排除や、効果的なヒト・モノ・カネの集中投入等、あらゆる施策を用いて世界最短レベルの定期点検工期を目指す。

現状

- ◆ 定期点検
火力発電設備は高温・高圧下での過酷な運転を行うことから、定期的な点検・保守や劣化に伴う取替修理が必要。定期点検は数十日の発電機停止を伴い、1日1,000人規模の作業員を要する。

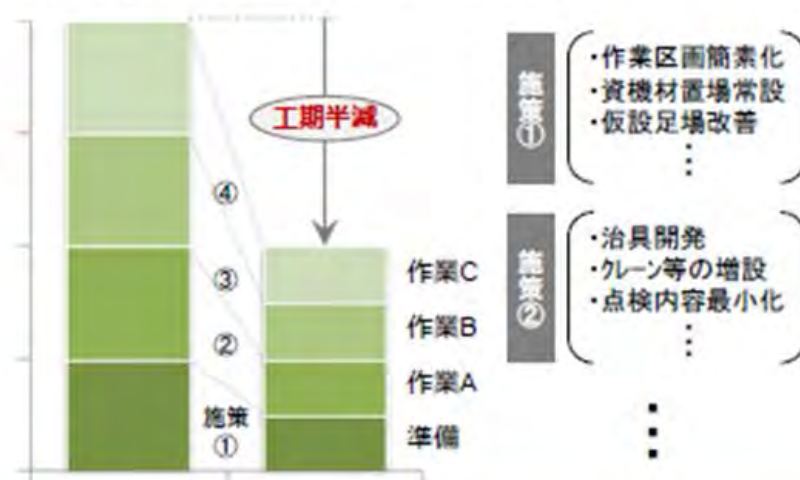


主な作業内容

- ✓ 数十トンにおよぶ重量機器の分解点検・補修
- ✓ 数千個の機器の分解点検・補修

施策実施後

- ◆ 定期点検工期半減
高効率機の稼働率向上による燃料費削減のため、あらゆる施策を用いて定期点検工期を短縮。



3. 生産性倍増に向けた10のチャレンジに関する取組み

C パワーグリッド・カンパニーの取組み事例(1/2)

施策概要

設備形成・調達改革(仕様合理化・汎用化・設備形成見直し・競争調達比率拡大)

- ◆ 設備仕様の品目数を見直し、量産効果、在庫圧縮によりコスト削減を目指す。
- ◆ 供給信頼度を維持した上で、設備形成の見直し、汎用品の積極的な活用によりコスト削減を目指す。
- ◆ 実質的な競争環境の実現により、コスト削減を目指す。

現状

柱上変圧器の取組み例(2014年度まで)



正面



裏面

合理化の着眼点

- ① 独自仕様(性能・部材)からの脱却・汎用化
- ② 設備全体で見た最適な機能配置
- ③ リユース拡大

施策実施後

柱上変圧器の取組み例(2015年度以降)

- ◆ ▲30%以上の単価削減を含め、更なるライフサイクルコストの低減を目指す。



正面



裏面



端子構造

具体的な施策

- ① 鉄心・二次側端子への汎用品活用
避雷器の仕様簡素化
- ② 付属部材の省略(電柱全体で見た最適な機能配置)
- ③ 簡易補修によるリユース拡大